

平成25年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成25年5月10日

上場会社名 カルナバイオサイエンス株式会社 上場取引所 大
 コード番号 4572 URL <http://www.carnabio.com>
 代表者 (役職名)代表取締役社長 (氏名)吉野公一郎
 問合せ先責任者 (役職名)取締役経営管理本部長 (氏名)相川 法男 (TEL)078-302-7075
 四半期報告書提出予定日 平成25年5月13日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成25年12月期第1四半期の連結業績(平成25年1月1日~平成25年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
25年12月期第1四半期	177	39.0	△71	—	△68	—	△71	—
24年12月期第1四半期	127	△19.5	△115	—	△114	—	△116	—

(注) 包括利益 25年12月期第1四半期 △16百万円(—%) 24年12月期第1四半期 △90百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
25年12月期第1四半期	△982 60	—
24年12月期第1四半期	△1,992 44	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
25年12月期第1四半期	1,131	879	77.5
24年12月期	1,116	880	78.9

(参考) 自己資本 25年12月期第1四半期 877百万円 24年12月期 880百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
24年12月期	—	0 00	—	0 00	0 00
25年12月期	—	—	—	—	—
25年12月期(予想)	—	0 00	—	0 00	0 00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成25年12月期の連結業績予想(平成25年1月1日~平成25年12月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,155	126.1	4	—	28	—	23	—	316 20

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 有
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

- ① 期末発行済株式数(自己株式を含む)
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数(四半期累計)

25年12月期1Q	72,800株	24年12月期	72,800株
25年12月期1Q	—株	24年12月期	—株
25年12月期1Q	72,800株	24年12月期1Q	58,710株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外ではありますが、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了しております。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社グループが現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「(3)連結業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 連結経営成績に関する定性的情報	2
(2) 連結財政状態に関する定性的情報	3
(3) 連結業績予想に関する定性的情報	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項	4
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動	4
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要	4
4. 四半期連結財務諸表	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	9
(4) セグメント情報等	9
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	9
(6) 重要な後発事象	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 連結経営成績に関する定性的情報

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、米国経済が緩やかな回復基調で推移し、欧州の金融状況が下げ止まり感を示しつつ推移するなかで、わが国政府と日銀による積極的なデフレ脱却政策に伴う為替相場の円安への転換などにより、輸出関連企業を中心に、一部で好転の兆しが見え始めているものの、依然予断を許さない先行き不透明な状況で推移いたしました。当社グループが属する製薬業界におきましては、これまで大手製薬企業の収益を支えてきた大型医薬品の特許切れに伴うジェネリック医薬品への代替が着実に進行する中、新たな収益の柱となる新薬の研究開発競争は一段と激しさを増しております。特に新薬の研究開発における中心地域である北米において、画期的な新薬の研究の中心が大手製薬企業よりバイオベンチャー企業に移行しつつあり、今後も全世界的な新薬の研究開発体制はオープンイノベーションへ加速的に進んでいくものと思われまます。このような環境の中で、大手製薬企業は臨床試験をはじめとする開発段階を中心にその役割を担い、当社をはじめとするバイオベンチャーが新薬創製の担い手として位置づけられるようになり、新薬の創製研究における重要性が増しております。

このような外部環境の中、当社グループは、キナーゼ創薬に係る創薬基盤技術を核とした創薬支援事業並びに創薬事業を積極的に展開し、事業の拡大を図ってまいりました。

セグメント別には、創薬支援事業におきましては、特に北米地域の売上拡大が重要との認識から、大手製薬企業の研究拠点の統廃合による顧客ネットワークの再構築を図る中で、近年創薬研究の主要な担い手として台頭してきたバイオベンチャーへの販路拡大に積極的に取り組むとともに、他社との差別化を図るために重要なオンリーワン製品・サービスの拡大に注力してまいりました。また、創薬事業におきましては、キナーゼタンパク質を標的とした創薬研究を精力的に推進してまいりました。当社は、ガン、免疫炎症疾患、神経変性疾患からなる4つの研究テーマで創薬研究を進めており、各テーマは、非臨床試験段階にあります。当社では、より効果的な研究開発活動を推進していくためにガンを重点領域として、細胞、動物試験等の高次評価系を共通化することで効率的な創薬研究を行なってまいりました。これら創薬研究と並行して大手製薬企業等への導出交渉を継続的に行ってまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の売上高は177百万円（前年同四半期比39.0%増）、営業損失は71百万円（前年同四半期は115百万円の損失）、経常損失68百万円（前年同四半期は114百万円の損失）、四半期純損失71百万円（前年同四半期は116百万円の損失）となりました。

セグメント別の業績は次の通りです。

①創薬支援事業

キナーゼタンパク質の販売、アッセイ開発、プロファイリング・スクリーニングサービス及びセルベースアッセイの提供等により、創薬支援事業の売上高は177百万円（前年同四半期比39.0%増）、営業利益は56百万円（前年同四半期比11,028.1%増）となりました。売上高の内訳は、国内売上は110百万円（前年同四半期比31.6%増）、北米地域は39百万円（前年同四半期比54.7%増）、欧州地域は25百万円（前年同四半期比81.2%増）、その他地域は1百万円（前年同四半期比62.1%減）であります。

②創薬事業

当第1四半期連結累計期間の創薬事業において、売上高の計上はなく（前年同四半期は売上高の計上なし）、営業損失は127百万円（前年同四半期は115百万円の損失）となりました。

(2) 連結財政状態に関する定性的情報

	前連結会計年度末	当第1四半期 連結会計年度末	増減
総資産 (百万円)	1,116	1,131	14
純資産 (百万円)	880	879	△1
自己資本比率 (%)	78.9	77.5	△1.3

①資産の状況

当第1四半期連結会計期間末における総資産は1,131百万円となり、前連結会計年度末と比べて14百万円増加しました。その内訳は、現金及び預金の減少68百万円、売掛金の増加8百万円、有形固定資産の減少3百万円、投資有価証券の増加80百万円等によるものであります。

②負債の状況

負債は251百万円となり、前連結会計年度末と比べて15百万円増加しました。その内訳は、1年内返済予定の長期借入金の減少13百万円、繰延税金負債の増加28百万円等によるものであります。

③純資産の状況

純資産は879百万円となり、前連結会計年度末と比べて1百万円減少しました。その内訳は四半期純損失71百万円の計上、新株式申込証拠金の増加12百万円、その他有価証券評価差額金の増加51百万円等によるものであります。

④その他の状況

自己資本比率は77.5%（前連結会計年度末は78.9%）となりました。

(3) 連結業績予想に関する定性的情報

平成25年2月8日に公表いたしました平成25年12月期の業績予想に変更はございません。

2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

(会計方針の変更)

当社における貯蔵品の評価方法は、従来、総平均法によっておりましたが、当第1四半期連結会計期間より、先入先出法に変更しております。この変更は、仕入価格の変動を損益に適時に反映させることと会計業務の効率化を目的として、受注拡大に伴う受託試験サービスにおける貯蔵品の使用量の増加を契機に、行ったものであります。

なお、この変更による損益への影響は軽微であり、遡及適用は行っておりません。

3. 継続企業の前提に関する重要事象等の概要

当社グループは、継続して営業損失及び営業キャッシュ・フローのマイナスを計上しており、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況（重要事象等）が存在しております。

当該重要事象等を解消するために、当社グループは、創薬支援事業においては更に拡販に努めることで売上の上積みを図るとともに、創薬事業においては研究開発をさらに推し進め、新薬候補化合物を製薬企業等に導出することで契約一時金等の収入を獲得してまいります。さらに、研究開発の効率化及び諸経費の節減等により販売費及び一般管理費の圧縮に継続的に取り組んでまいります。

以上により、早期の全社業績の黒字化を達成し、当該重要事象等が早期に解消されるよう取り組んでまいります。

なお、当社グループは事業活動を継続するための十分な手元資金を保有しております。

4. 四半期連結財務諸表
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	654,993	586,291
売掛金	85,421	93,847
商品及び製品	98,676	98,494
仕掛品	3,221	7,844
原材料及び貯蔵品	13,404	13,769
その他	57,438	52,598
流動資産合計	913,157	852,847
固定資産		
有形固定資産	53,672	50,052
無形固定資産	9,184	7,880
投資その他の資産		
投資有価証券	121,070	201,648
その他	19,808	18,981
投資その他の資産合計	140,878	220,630
固定資産合計	203,736	278,562
資産合計	1,116,893	1,131,410

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	825	—
1年内返済予定の長期借入金	36,666	23,216
未払金	35,604	33,629
未払法人税等	5,892	2,286
その他	30,506	42,196
流動負債合計	109,494	101,327
固定負債		
長期借入金	97,474	92,620
繰延税金負債	5,407	33,986
資産除去債務	23,724	23,842
固定負債合計	126,606	150,449
負債合計	236,101	251,777
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,270,759	2,270,759
新株式申込証拠金	—	12,879
資本剰余金	818,213	818,213
利益剰余金	△2,207,020	△2,278,554
株主資本合計	881,951	823,297
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	2,877	54,729
為替換算調整勘定	△4,036	△677
その他の包括利益累計額合計	△1,159	54,052
新株予約権	—	2,282
純資産合計	880,792	879,632
負債純資産合計	1,116,893	1,131,410

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)
売上高	127,346	177,048
売上原価	55,269	58,369
売上総利益	72,076	118,679
販売費及び一般管理費	187,120	189,706
営業損失(△)	△115,043	△71,027
営業外収益		
受取利息	173	57
為替差益	1,143	4,832
その他	519	410
営業外収益合計	1,836	5,299
営業外費用		
支払利息	791	465
新株予約権発行費	—	2,422
その他	203	203
営業外費用合計	995	3,091
経常損失(△)	△114,201	△68,819
特別損失		
固定資産除却損	148	—
減損損失	2,118	2,200
特別損失合計	2,266	2,200
税金等調整前四半期純損失(△)	△116,468	△71,020
法人税、住民税及び事業税	586	586
法人税等調整額	△78	△72
法人税等合計	507	513
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△116,976	△71,533
四半期純損失(△)	△116,976	△71,533

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年1月1日 至平成24年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年1月1日 至平成25年3月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△116,976	△71,533
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	22,952	51,852
為替換算調整勘定	3,101	3,359
その他の包括利益合計	26,053	55,211
四半期包括利益	△90,922	△16,321
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△90,922	△16,321

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

I 前第1四半期連結累計期間(自 平成24年1月1日 至 平成24年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		
	創薬支援事業	創薬事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	127,346	—	127,346
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	127,346	—	127,346
セグメント利益又は損失(△)	509	△115,553	△115,043

(注) セグメント利益又は損失の合計は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しており差額はありません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第1四半期連結累計期間において、「創薬事業」に係る減損損失2,118千円を計上しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 平成25年1月1日 至 平成25年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		
	創薬支援事業	創薬事業	計
売上高			
外部顧客への売上高	177,048	—	177,048
セグメント間の内部売上高又は振替高	—	—	—
計	177,048	—	177,048
セグメント利益又は損失(△)	56,705	△127,732	△71,027

(注) セグメント利益又は損失の合計は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しており差額はありません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

当第1四半期連結累計期間において、「創薬事業」に係る減損損失2,200千円を計上しております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。